

東陽中だより

教育目標 ～明日を拓く～
・豊かな心 ・活きた知性 ・たくましい体
発行責任者 小野寺 憲治
文 責 佐々木 正道
発行日 平成28年7月22日

一学期を振り返って

東陽中学校長 小野寺 憲治

4月7日、新入生109名を迎え平成28年度がスタートし早いもので1、2年生72日間、3年生71日間の1学期が終了します。学校行事では、明日を拓く集い（対面式・部活動紹介等）に始まり、学力テスト、家庭訪問、修学旅行、遠足、体育祭、期末テスト、合唱部の合唱祭参加、中連陸上競技大会、中連夏季大会、上代決定戦など多くの行事がありました。1年生にとっては、時間毎に先生が替わる授業に、戸惑いもあったことと思います。でも、毎日をととても明るく過ごしていることが何よりと感じていました。また、徐々に中学校の環境に馴染み中学生の顔となり、制服も似合うようになってきていることに驚きと頼もしさを感じています。

行事の一つである中連夏季大会は、3年生の集大成の場であり、中心となって頑張る姿が印象的でした。競技なので勝敗はつきものです。そこではチームや個人の力が常に発揮できるとは限りません。野球部の1回戦コールド勝ちは見事でした。サッカー部は必死になり1点を取りに行きましたが残念な結果となりました。男子バスケ部は、意表を突くディフェンスが功を奏し、一時僅差まで追いつきましたが接戦の末敗れました。女子バスケ部は、相手チームには外角シュートを多く決められていましたが負けじと外からのシュートを決めて一矢報いました。バドミントン部は、外からの光と風を遮断した暑苦しい体育館で頑張りました。「旭川を制すれば全道を制する。」と言われる強豪校や選手がいる中善戦しました。ソフトテニス部は、好天に恵まれすぎた灼熱の太陽の下、団体戦上代出場を目指しました。男女共にその目標はかないませんでした。暑さに負けず闘う姿勢は立派でした。卓球部は、手に汗握る1点を争う好ゲームばかりでした。男子団体は今一歩のところまで敗れ、女子は準優勝を勝ち取り上代へと駒を進めることになりました。そんな中で個人戦で女子ソフトテニス、卓球、バドミントンが上代出場を果たしました。結果にこだわること大切ですが、学校を代表して参加した選手たちの奮闘に心から拍手を送ります。

続いて行われた上代決定戦では、男女バドミントン部から佐々木優吏君と佐々木ゆなさんが地元旭川市で開催されます全道大会への出場を果たしました。全道大会での活躍を全校生徒と全職員が応援しています。他の皆さんは夢を果たすことが出来なかったかも知れませんが。教育課程に位置づけられているとは言え、学習と部活動を両立させることや肉体的・精神的な苦勞も伴いました。でも、部活動を通して学んだ頑張ることの大切さや他を思いやり協力することの素晴らしさ、そして保護者や監督の先生等に感謝の気持ちをもつことなどを心の糧とし、これからの多難な時代をよりたくましく生きる力を持った人間に育ってほしいと願っています。

いよいよ明日から夏休みに入ります。今年は全道ソフトテニス大会の当番校を引き受けています。8月1日から3日まで花咲テニスコートを会場に行われ、テニス部員を中心にお手伝いをお願いしています。全道各地から来旭する選手のために職員と生徒が総力を挙げて取り組みます。

保護者の皆様にお願いです。夏休み期間中は、①自分のペースでしっかりした生活を送る。②1学期の学習の定着のため家庭学習を計画的に行う。③家事を分担し、地域行事にも積極的に参加する。④安全第一。交通事故、けが、さまざまなトラブルに巻き込まれない、など保護者の皆様にはお子様の家庭生活の充実に向けご指導をお願いします。

それでは、2学期元気な顔で会えることを楽しみにしています。



<卒業生が寄贈してくれました>